

「四国防災・危機管理プログラム」成果報告及び第10期生修了記念
第12回防災・危機管理人材養成シンポジウム

四国防災・危機管理プログラム 成果報告

SHIKOKU

Disaster Prevention and

Crisis M

Education Program



四国防災共同教育センター
センター長 長谷川修一

令和6年3月13日

四国防災共同教育センター

＜連携大学＞

香川大学、徳島大学

＜連携行政機関＞

香川県、徳島県

四国防災・危機管理プログラム

◆ 大規模広域災害やグローバル化する危機に対して、適切かつ迅速に対応できる専門家を養成する事業

- ・ 平成25年度から募集、令和5年度で第10期生の修了
- ・ 香川大学と徳島大学が連携して開設、香川県、徳島県が協力

◆ 3つのコースに分かれた大学院の講義

1. 行政・企業防災・危機管理マネージャー養成コース
2. 救急救命・災害医療・公衆衛生対応コーディネーター養成コース
3. 学校防災・危機管理マネージャー養成コース(現在募集中止中)

※ R4年度より基本的に講義はオンライン化
大学に通学せず職場や自宅からの受講が可能

修了要件(単位数)
共同実施：4科目7単位
コース専門：3科目5単位
合計：12単位

プログラム修了生数

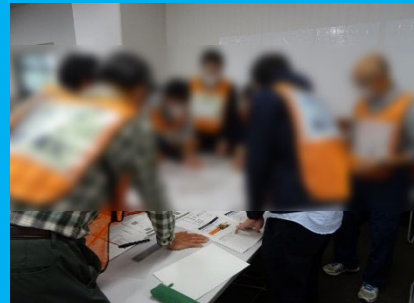
コース	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	小計
行政・企業防災コース	37	11	29	22	24	17	19	17	21	24	221
救命・災害医療コース	3	3	7	3	3	2	3	0	0	0	24
学校防災コース	5	2	6	0	0	0	0	0	0	0	13
合計	45	16	42	25	27	19	22	17	21	24	258

※平成29年度以前と平成30年度以降はコース分類が異なる

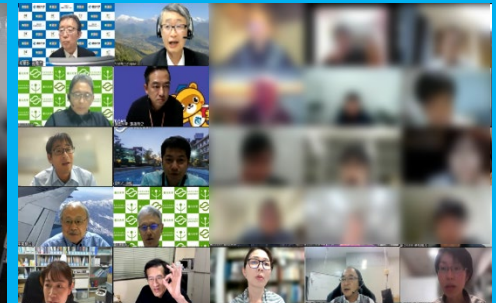
四国防災・危機管理プログラム コース選択

① 行政・企業・医療防災・危機管理 マネージャー養成コース(香川大学)

地域社会を構成する自治体・企業・医療機関などの地域組織のリスクマネジメント、事業継続計画BCPやMCP策定、住民の安全・安心を守れる防災・危機管理マネージャーの育成を目指します。



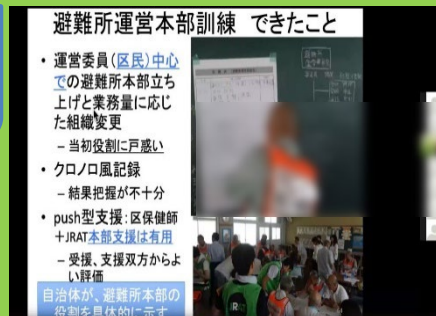
HUG(避難所運営ゲーム)訓練



遠隔講義の様子
(グループディスカッション)

② 行政・企業防災・危機管理 マネージャー養成コース(徳島大学)

地域社会を構成する自治体・企業・地域組織のリスクマネジメント、組織及び地域のBCP策定、住民の安全・安心を守れる防災・危機管理マネージャーの育成を目指します。



遠隔講義の様子



PFA研修

③ 学校防災・危機管理 マネージャー養成コース

地域コミュニティと連携して、学校・地域の防災教育、教育継続計画(ECP)策定、児童・生徒の安全・安心を守れる指導者の育成を目指します。



講義風景
(TV会議システムによる遠隔講義)



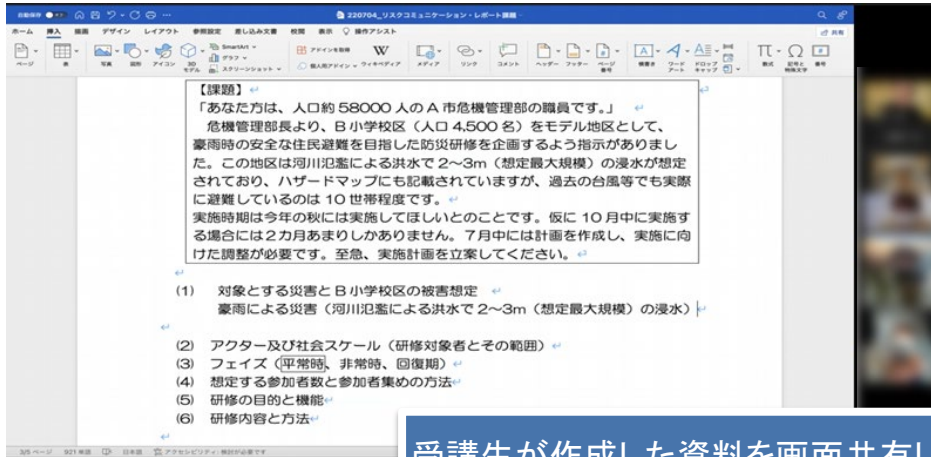
発表資料

令和5年度 四国防災・危機管理プログラム授業科目一覧

区分	科目名称	単位数	開講学期	時間割
共同実施基礎科目	リスクコミュニケーション (1年生)	2	前期	月 18:00~19:30
	危機管理学 (1年生)	2	前期	火 18:00~19:30
	災害と健康管理・メンタルヘルスケア (1年生)	2	後期	火 18:00~19:30
	防災・危機管理実習 (1年生)	1	後期	集中 (11/5・11/6)
行政・企業・医療防災・危機管理マネージャー養成科目群 (香川大学)	行政・企業・医療のリスクマネジメント (1年生)	2	後期	水 18:00~19:30
	事業継続計画 (BCP・MCP) の策定と実践 (2年生)	2	前期	月 16:20~17:50
行政・企業防災・危機管理マネージャー養成科目群 (徳島大学)	行政・企業のリスクマネジメント (1年生)	2	後期	水 18:00~19:30
	事業継続計画 (BCP) の策定と実践 (2年生)	2	前期	月 16:20~17:50
実務演習科目	行政・企業防災・危機管理実務演習 (2年生)	1	後期	

授業風景(共同実施基礎科目)

リスクコミュニケーション



受講生が作成した資料を画面共有しながらグループワークを実施

外部講師による講義を実施

食レポに挑戦

・表現力、描写力を磨くには一人食レポがお勧め
普段の生活の中で試してみよう

形、色、香り、食感、味わい

どんな風に美味しい?
“美味しい”以外の言葉も使う

味の的確に相手に伝える言葉とは?

まとめ

課題 豪雨時の安全な住民避難を目指した防災研修を企画

参加者 豪雨時地域の3区研修：50世帯、200人程度

目的 意識改革・地域定着・実践的知識の獲得
避難という行動を自分事

研修内容 ハザードマップの作成と活用・防災意識の活用
其の身体認識の学習

研修方法 内容別2日研修での実施
防災士会・民生委員児童委員協議会・大学など各組織連携

今後の発展 原簿・アンケート調査のフィードバック
半研修をモデルケースに、他地域への転播・継続的な研修計画の策定

おまけ

- ▶ 年齢や立場、環境の違いと話し合うことで自分にはない発想や意見を聞くことができた
- ▶ 自分たち自身もどこか防災・減災を他人等として考えていた部分に気付くことができた
- ▶ 人を動かすうえで先人に学ぶことは重要
- ▶ 6人で取ろう

まとめ

- 1回目
防災に触れる機会の創出
災害に関する危機感
- 2回目
災害の危険の認知
避難方法、避難場所の確認
住民同士のつながりの強化

住民を巻き込んでの共助の意識で
防災意識の向上、避難行動の促進

まとめ

- 大雨による洪水が想定される中、避難行動を自主的に起こしてもらおう、B小学校が自らの防災意識向上させることが必要
- 先ずは、**防災意識が高く、地域のリーダーとなるような自主防災組織のリーダー**（10人程度）を対象とした
- 研修会の内容は、知識を身体にしみこませることができるよう、**座学とフィールドワークのハイブリット型**とした。
- 座学では、初心者にわかるよう、**最低限の基本知識**について講義し、理解した。
- フィールドワークでは、避難経路を実際に歩いて**安全性を確認**することで、座学で学んだ知識を体験する。
- また、まるごとまちごとハザードマップの作成、**地域から防災について考えること**ができるよう、**避難経路**の作成を推進。
- 避難行動を促進するための防災学習では、リーダー10人を起点とし、**地域へ広がるようなミニミニ会**を展開
- の後は、研修の内容をアンケートなどで評価し、第2回以降の内容の充実を図り、地域の防災意識を向上させる。

7.研修会により期待される成果と今後の展開

- ・ 避難経路、避難場所、避難として必要な物資の確保
- ・ 防災意識の向上による避難行動の促進
- ・ 防災意識の向上、実践的知識の獲得
- ・ 地域でのミニミニ会による避難行動の促進
- ・ 防災士会・民生委員児童委員協議会・大学など各組織連携

今後の発展

- ・ 原簿上の研修会の内容を基に、いつでもスタンダードな研修を実施し、
- ・ 地域ごとリーダー育成の継続的な向上を図る。

受講生が共同で作成した研修計画をZoom上で発表

四国防災・危機管理プログラム2023年度前期講義アンケート (共同実施基礎科目 リスクコミュニケーション)

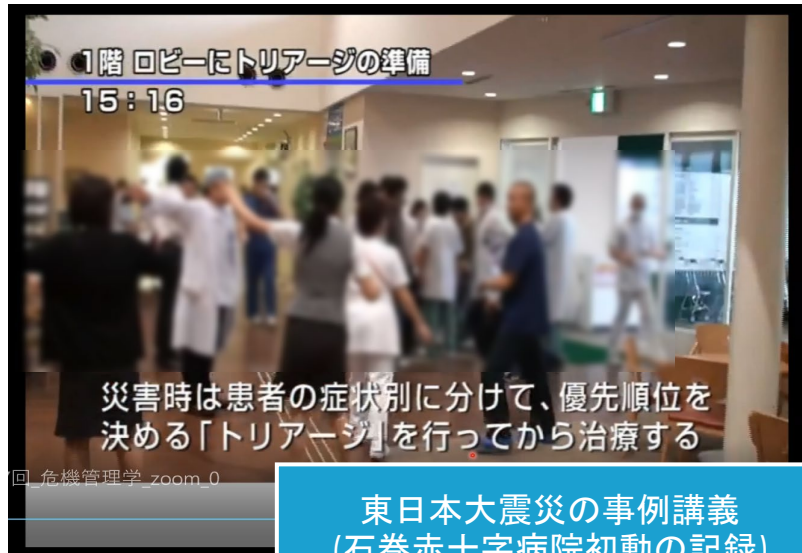
このアンケートは、四国防災・危機管理プログラムにおける教育を改善するための資料を得る目的で行うものです。尚、この調査は匿名で、成績評価とは無関係です。

1. 現在のお立場を教えてください。
 - 社会人
 - 学生
2. 所属大学は？
 - 香川大学
 - 徳島大学
3. 四国防災・危機管理プログラムを受講していますか？
 - 受講しています
 - 受講希望です
 - 受講していません

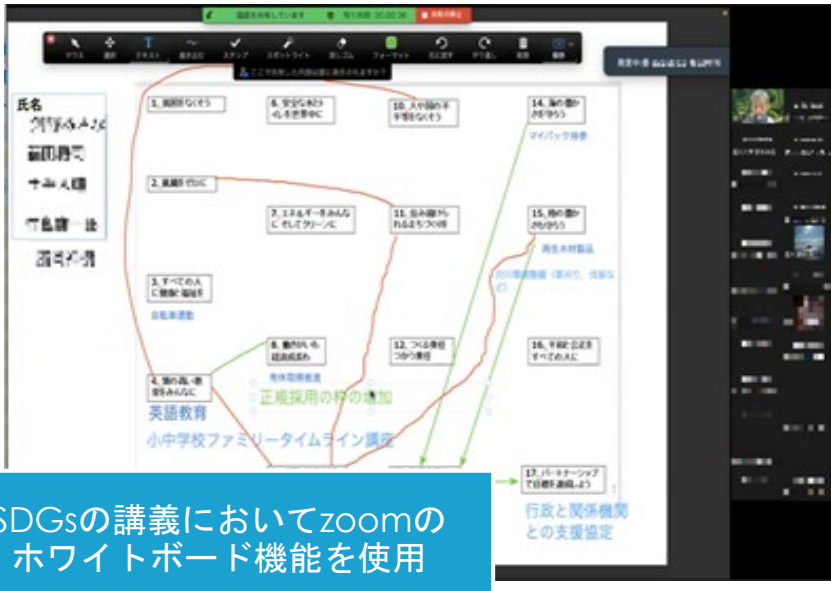
講義アンケートをWeb(Forms)で実施

授業風景(共同実施基礎科目)

危機管理学



東日本大震災の事例講義
(石巻赤十字病院初動の記録)



授業風景(共同実施基礎科目)

災害と健康管理・メンタルヘルスケア

避難の衛生・環境管理の講義

特殊危険物質・環境保健の講義

概要

1. 新型コロナウイルスの影響
 1. 今までの基本+新型コロナウイルス感染症対応
 2. 密を避ける、清掃・消毒
2. 災害時衛生管理の基準
 1. 内閣府
 2. Sphere
3. 被災者の活動、参画



本日の講義 「災害と健康管理・メンタルヘルスケア」

- 災害医療について
 - 化学兵器
 - 生物兵器
 - 被ばく(医療)?
- ✓アスベストについて
- 新型コロナウイルス感染症と自衛隊の活動について
- 防衛省・自衛隊の活動について
- 追加で...戦傷医療について



課題発表の様子

香川大学_s22x004_中村康人 「災害時の健康管理に関する過去・現在の経験とそれらへの対応」課題

①講義で学んだこと

1-大規模災害と保健医療サービス
2-スフィアプロジェクト
3-災害時のこのころのケア
4-感染症
5-熱中症
6-深部静脈血栓症
7-持病の管理
8-生活不活発病

災害時のこのころのケア
被災者の30-80%が何らかの精神医学的問題を有している。
ASD(自死ストレス障害)
PTSD(心的外傷後ストレス障害)
うつ病
アルコール依存症、その他の物質依存症
慢性的精神疾患の再発
認知症
パニック障害
過剰な不安

このころのケアの心構え
災害-被害も肯定せず、評価を加えず、
関係-注意深く、正確に、真実に寄り添う。
共感的理解-価値観の違いを尊重し、
相手の立場にたって
理解しようとする態度

生活不活発病
-費用症候群・心身の機能が低下・心身機能低下の前兆に活動、生活行為、参加の低下
原因の例-環境の大きな変化のために動けない
原因の例2-動かないようにと抑制されている

対応
個別対応
-医師、看護師と生活の活性化の指導
生活機能回復窓口設置(訪問指導・訓練)
早期からの啓発(被災者ポータルサイト)

予防
活動に動く
身まわりの片づけ
楽しみや役割を持つ、作る
工夫をする
適度に動かし、息を吐く
関わる全ての人が啓発
過度の介入はしない

西日本豪雨災害後に認知症患者が増加
2018年7月7日(土)、倉敷市真備町に入り約1週間、現地の情報を発信、被災後のためにの作業のうちに心のケアは進められました。
-想定区域と浸水区域がほぼ一致。
-被害は想定してきたものより1人が死亡。
-死者の約1/3が高齢者
ある被災者のことば:
「家は壊れなくても、ここにいてもという気持ちになるのだろうか...」

西日本豪雨災害後に認知症患者が増加
出典:広島大学大学院先進理工系科学研究科 庵原小枝里准教授

今回の研究:
被災した広島県、岡山県、愛媛県の診療報酬明細書データを分析し、65歳以上の住民の認知症治療薬処方数を災害前後(それぞれ1年単位)で評価。
結果の内容:
被災後認知症治療薬の処方数が非被災災害群と比較して増加。これらの結果により、被災災害は被災した高齢者の認知機能を低下させ、医師による治療の開始、あるいは処方をもたらしめている。
今後の課題:
気候変動による自然災害増加、また世界的な高齢化社会の進行に伴い、高齢者の災害対応準備が必要で、高齢者のレジリエンスを高める「ヘルピーエイジング」の取り組みを加速させる必要がある。
事前準備の観点で、貴校がこのころのケアや生活不活発病予防など理解を深める。

考察 「ただ生き延びるだけではなく、このころの充実・健康寿命をのばすなど被災者の「心の再建」を後押しする施策が必要」

PFA研修の様子



授業風景（共同実施基礎科目）

防災・危機管理実習（2日間の集中講義）

1日目（香川大学）



DIG（災害図上）訓練の様子

1日目（香川大学）



HUG（避難所運営ゲーム）訓練の様子

2日目（徳島大学）



避難趣味レーションゲームの様子

2日目（徳島大学）

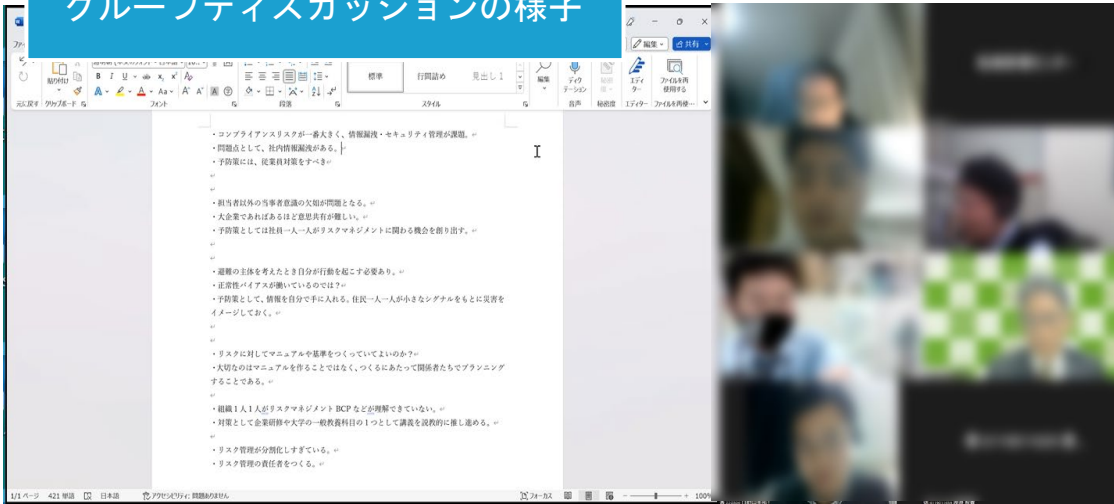


総括DIG訓練の様子

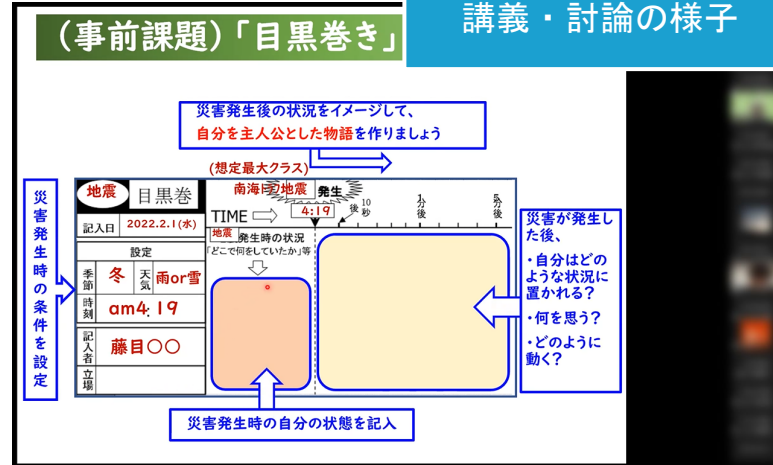
授業風景(行政・企業コース)

行政・企業・医療のリスクマネジメント

グループディスカッションの様子



講義・討論の様子



災害復興で抑えるべき内容(仮)

- 事例(国内・国外、ハザードのタイプ別):無数に存在
- 国・地方自治体の制度・政策 (復旧)・復興資金
- 都市・地域計画(高台移転問題、復興土地区画整理、社会基盤強化、仮設住宅提供方法)
- 合意形成論
- 個人・家族・コミュニティ再生/ソーシャルキャピタル
- 生業・産業復興(農林水産業、地場・小売り、製造業)
- 事前復興計画
- 復興の経済分析
- 復興のための法制度
- 心のケア、災害ボランティア
- 復興問題に関する各種社会科学的方法

参考:創造工学部3年次:復旧・復興デザイン

以下のフォームから回答をしてください

<https://forms.office.com/r/qb59GLd4hA>



講義中Formsを使用した意見集計

7回答者(28%)がこの質問に地域回答しました。



授業風景(行政・企業コース)

事業継続計画(BCP)の策定と実践

香美市BCPの課題

【課題】

- 災害時に実施する業務内容や考え方の整理はされているものの、被災時の参集可能人数や業務量との比較が行われていない。(実際に仕事は回るかどうかはわからない)
- 教育・訓練の内容が古閑としている。被災時には、組織を横断して災害対応をすることから、
 - ①香美市の被災状況
 - ②公務員としての対応の際の考え方
 - ③それを踏まえてBCPの記載内容の説明
 …等について説明する必要がある。

また、上記のような基本的な災害対応について学ぶだけでなく、

- ④訓練の実施
- 所属長クラスの取り組み方次第で職員への浸透度に差が出てくる内容であると感じた。職員がBCPの内容を自分事としてとらえられる書き方を考える必要があるのでは？

【その他】

- 対象とする災害について、現在のBCPは南海トラフ地震を対象としているが、対象とする災害の位置づけをどのように設定するか、前段の議論が必要。
- また、災害の時勢に合わせて、感染症などが同時に発生することも想定したBCPにリバイスしていく体制を整えるかを考える必要がある。

グループワーク
(各グループに講師を配置し指導)

あなたは… (3)

市役所水道課職員です。

地震発生から1週間、避難所が予想外に多くでき、避難所で物資管理をしています。他の課の職員も課長以外はほとんど避難所に張り付き、家族が亡くなった職員もあり、体力的にも精神的にも限界を感じています。自身も本来の職務は下水道施設の維持管理のため、早期復旧・復興に向けた被害調査や各種申請に着手しなければと気をもんでいます。

あなたは、避難所の物資管理を他の職員に任せて、今すぐ本来業務に戻るよう災害対策本部にかけあいますか？

Decision

Y

Yes

かけあう

Decision

N

No

避難所に留まる

グループワーク
(受講生が作成したクロスロードを発表)

3-1. 提案

■ 目指すサイクル

振り返る

- ▶ 評価・改善
- ・社内SNS
- ・イベントに関するアンケート実施
- ・気軽に投稿できる意見箱

知る

- ▶ 概要版
- ・各課対抗BCPを簡単にしよう大会
- ・職員のBCPに対する理解を深める
- ・実際に使用できれば市民にも市の防災が伝わる
- ・アンパンマン活用

体験する

- ▶ 体験型イベント
- ・庁舎まるごとBCP大運動会 (81年目標予定)
- ・協力型・競争型のイベントにすることで、主体的な行動や学びを促す
- ・社内交流を促進させ非常時の助け合いの強化を目指す

演習発表はオンラインで、1~4班で行う。

事業継続計画(BCP)の策定と実践
演習課題

高知県香美市における事業継続計画(BCP)のリニューアルプロジェクト (グループ4)

グループ班の代表が演習発表

行政・企業防災・危機管理実務演習(香川大学)

■授業の目的

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

■授業の概要

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を担当教員の指導の下で実施し、実務能力を修得する。

■キーワード

行政、企業防災、実務演習

■到達目標

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

	受講生	各班成果報告会テーマ
1	鎌田 暉	ChatPDFを用いた事業継続計画（BCP）への活用方法の検討・提案
	田中 健太郎	
2	小西 民恵	業務のフェーズフリーを促す建物修繕報告システム
	上井 俊佑	
3	日野田圭祐	『災害時における放送の継続についての探求』 ～KSB瀬戸内海放送における事例を通じて～
	新開 得央	
4	光中 博彦	「鉄道事業におけるBCP策定と支援ツールに関する一考察」
5	中村 康人	楽しく「共助」 －ともに歩む防災・減災のあるべき姿－
	竹内 悠	
6	松田 知樹	MRを活用した水害リスク認知の支援に関する考察
	筒井 優輝	
7	細川 雅博	河川管理者が発表する情報を住民が命を守る情報に結びつける
	向山 正純	
8	三木 貴子	災害派遣福祉チームの実践的な研修・訓練に関する提案
9	福田 将司	ウェルビーイング活用による企業リスク低減を目指して

のちほど
成果を発表

行政・企業防災・危機管理実務演習(徳島大学)

■授業の目的

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

■授業の概要

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を担当教員の指導の下で実施し、実務能力を修得する。

■キーワード

行政・企業防災・実務演習

■到達目標

行政・企業防災危機管理マネージャーに必要な防災・危機管理に関する実務演習を通して、実務能力を修得する。

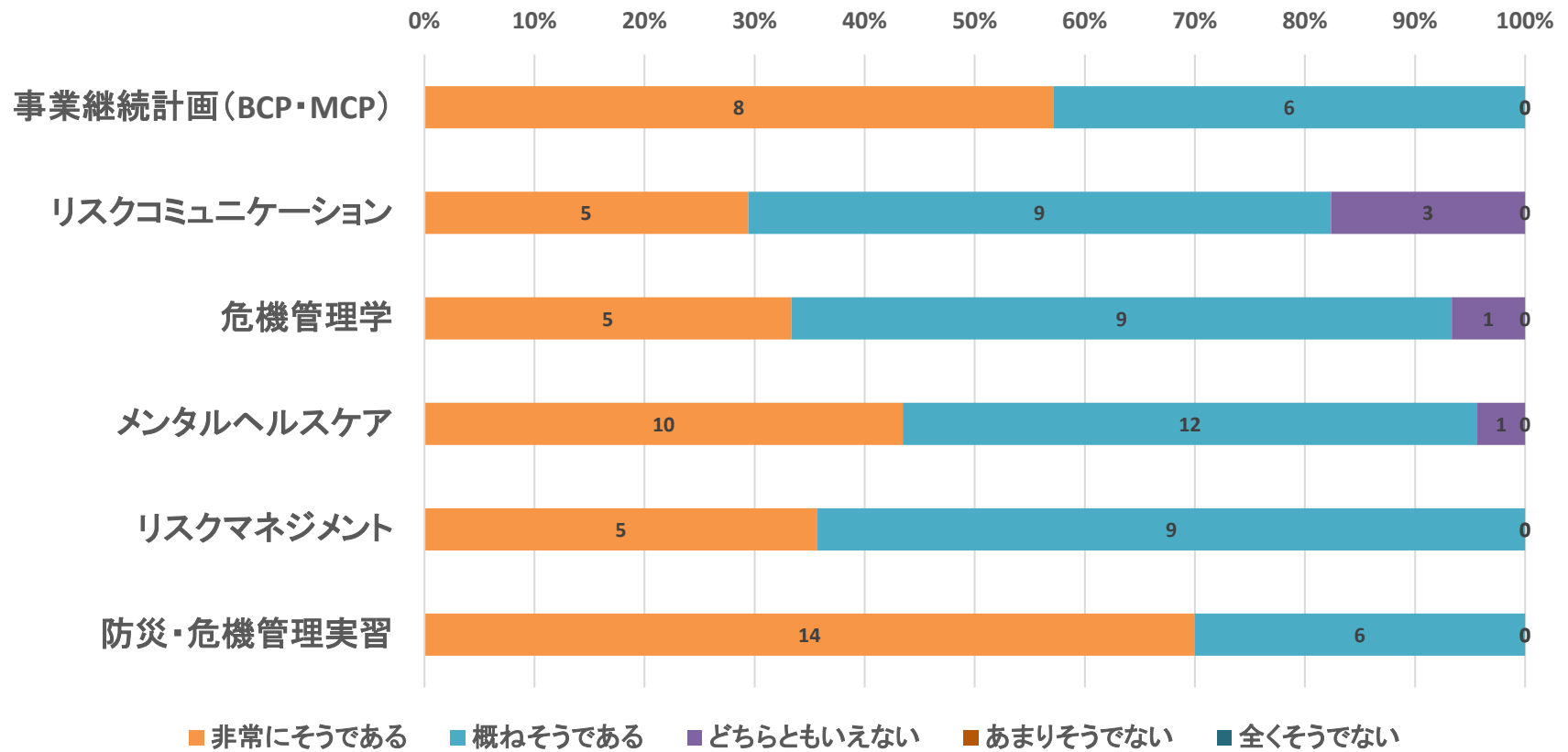
	受講生	各班成果報告会テーマ
1	土山 祐司	防災レジリエンス研究室を避難所として開設する際に必要な避難諸運営マニュアルとは？
2	原田 玲央奈	避難所開設キットを利用した避難所の開設と学生に向けた効果的な周知方法について
3	瀧野 萌	件空室の防災・危機管理における継続可能な取り組みの検討
4	本原 将吾	徳島大学版HUGの作成
5	三谷 真帆	徳島大学の安否確認メール訓練における学生参加率向上に向けた研究
6	江淵 颯真	建設系実験等コンクリート計実験室における防災・危機管理に関する調査・分析、課題解決方法の提案
7	ARZU DURJOY	Disaster Response Education of International Students of International Dormitory of Tokushima University, Kitajima
8	佐和 慧	実践からつくる災害対応マニュアル
9	中山 美紀子	震災後に有効となる防災啓発について ～住民と自治体職員が手を携え、早期復興を目指すために～
10	竹島 雄一郎	所属機関における防災情報の発信方法の見直しについて

のちほど
成果を発表

令和5年度受講生アンケート結果

「あなたは、総合的に判断してこの授業に満足していますか？」

R5年度各講義の満足度



※ メンタルヘルスケアについてはプログラム生のみとする。

講義内容の評価(自由意見)

いずれの講義も、約8割以上が総合的に満足(以下、抜粋)

◇ 人の考え、心理的な事、時間を考慮して考える事に、今回の講義で重要な点と捉えました。人材の力には限りがあり、その仕事量と判断については、人とのコミュニケーションがいかにキーとして大切になるのか。これこそが、リスクコミュニケーションにとって大切なところであると学びを頂きました。(リスクコミュニケーション)

◇ 講義に関し概ね興味を引く内容であったが、広範囲にわたる内容であり、その時には理解が十分でない部分もあった。今後学んでいくうえで、自身の関心がどこにあるのかを整理できた。これからの実務において生かしていきたいと思う。(危機管理学)

◇ 学生・社会人 徳島大学・香川大学とガラガラポンしてのグループワークは有意義です。司会・進行の力量に委ねられている部分は大いにありますが、それも学ぶべきスキルと捉えれば大切な取り組みだと思えます。やむを得ず一度欠席してしまいましたが、グループ内の動画を録画していただき視聴することでスムーズに進めることが出来ました。全般的にいい講義だったと思えます。ありがとうございました。(事業継続計画)

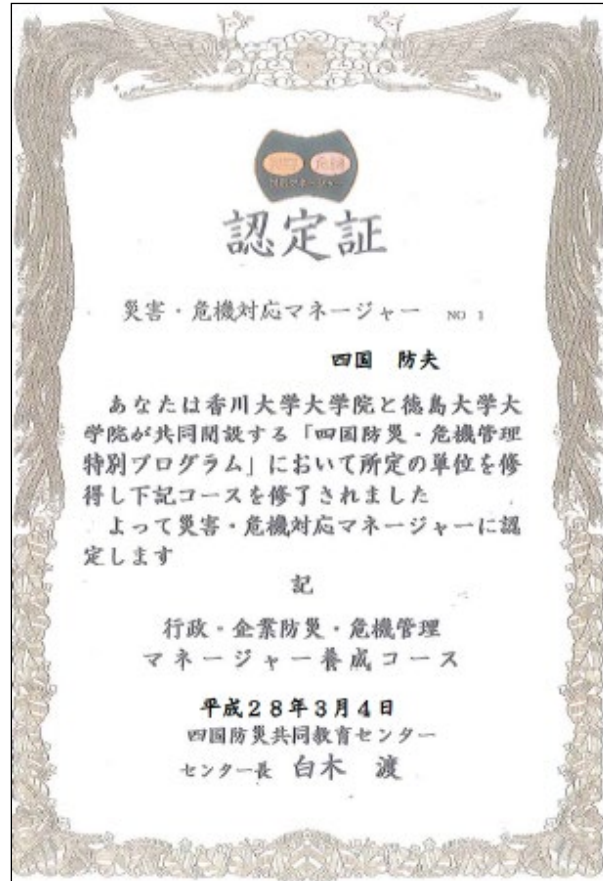
◇ 感想としては、ここまで実践させますか？という印象です。リアル度のレベルが高く、非常に勉強になりました。実習しただけでなく、現地で経験するという体験を積んでみたくなりました。今回得た知識は、実習は本当に役立つのか？という、裏付けをとってみたいです。(防災・危機管理実習)

◇ 医療とメンタルヘルス、企業における役割や、その考えを持つ人材を一人でも増やしていけるように企業活に尽力したいと考えています。社員一人一人が大切な何かを守れるようにできればと少なからず考えてしまいます。多角的な内容の講義から得られる視点は、今後の活動に活かせるよう学びを続けて参ります。先生方、スタッフの皆様を支えて頂き心より感謝申し上げます。(メンタルヘルスケア)。

◇ 複数人による意見交換を行うについては、オンラインは向いていないと思いました。発言しない人は全く発言しない。(リスクマネジメント)

災害・危機対応マネージャーの資格認定

- 四国防災・危機管理プログラムを修了すると認定
- 「災害・危機対応マネージャー」は徳島大学、香川大学の登録商標



社会人の学びを 経済的にサポート

- 「職業実践力育成プログラム」(BP)に認定
- 「四国防災・危機管理プログラム」は、学び直したいと考える社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムであるとして、文部科学大臣から「**職業実践力育成プログラム**」(BP)に認定されました。



Brush up Program
for professional

- 「**専門実践教育訓練**」の指定を受ける
- 「四国防災・危機管理プログラム」は、厚生労働省の教育訓練給付金の**専門実践教育訓練**として指定を受けました。
- 入学料、受講料などの**50%** (修了すれば**+20%**)の給付金を受給できるようになりました。